

非核の政府を求める京都の会 2025 年 公開講座 & 第 38 回定期総会



昨年暮、日本被団協にノーベル平和賞が与えられた。私たちは、核兵器禁止条約に基づいた「核なき世界」に近いのでは、日本政府の核政策も変わるのでは、と期待が一瞬ふくらんだ。

世界に目を転じると、ウクライナやパレスチナでの長引く戦争。プーチン露大統領の度重なる核兵器使用の脅し。イスラエル軍幹部の核兵器の脅し。あげくにマクロン仏大統領が「核の傘で欧州防衛」などと言い出した。

さらに驚くのはトランプ米大統領の、二度の世界大戦を経て形成された国際秩序（国連憲章・国際法・国境・自由貿易）を無視した暴言の数々が飛び出す始末。

日本では「核共有」が持論の石破首相が昨秋発足。国会での予算審議で、石破首相の「低姿勢」に野党の一部が助け船。大軍拡が闊歩し出した。トランプ米大統領との初会談では「言うべきことを言わず、おだて、経済投資増を約束させられ、『イエスマン』になる可能性が非常に高い」と評される姿だった。

いったい、世界は、日本は、これからどうなるの……。

この暴走にあけくれる世界、野蛮化した国際社会と日本を、鋭い視点で分析される木戸先生に、とくにドイツの先の総選挙結果をふまえた「明日への展望」を語っていただきます。

「世界の野蛮化に^{あらが}いかに抗うかードイツ総選挙に寄せてー」

講師：木戸 衛一さん（本会常任世話人）

日時：4月12日（土）13:30～

会場：京都教育文化センター・101号室

●資料代：500 円

※なお、公開講座終了後、15時から同会場で非核の政府を求める京都の会定期総会を開催いたします。会員以外の方の定期総会への傍聴を歓迎します。

プロフィール

木戸衛一（きど えいいち）専門は現代ドイツ政治。1957年千葉県柏市生れ。1981年東京外国語大学外国語学部ドイツ語学科卒業、1988年一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了。一橋大学社会学部助手、大阪大学教養部専任講師を経て、2007年大阪大学大学院国際公共政策研究科助教授、2000～01年ライプツィヒ大学政治学科客員教授、2008年ベルリン自由大学博士、2007年大阪大学大学院国際公共政策研究科准教授。2020年同教授。2023年同招へい教授。憲法9条京都の会代表世話人。主な著書に『ベルリン過去・現在・未来』（1998.9）、『ラディカルに〈平和〉を問う』（小田実と共著、2005.8）、『ドイツ左翼党の挑戦』（長野八久と共編著、2008.3）、『核開発時代の遺産：未来責任を問う』（若尾祐司と共編、『変容するドイツ政治社会と左翼党（2015年）、2017.10）、『核と放射線の現代史』（若尾祐司と共著、2021.3）、『若者が変えるドイツの政治』（2022.11）。